

# つながる力

《No.6》



10月2日(日)、天草総会のフィールドワークとして訪問した御所浦から、天草の港に戻ってきた参加者達。「来年は北九州で会いましょう」と、元気に解散しました。

## —目次—

- 《共同代表》第3回総会を終えて 大津幸夫・・・・・・・・・・2ページ
- 《総会現地事務局》第3回総会を終えて 生駒研二・・・・・・・・・・3ページ
- 《報告》御所浦フィールドワーク フォトレポート・・・・・・・・・・4ページ
- 《全協事務局》第3回総会報告 松本宣崇・・・・・・・・・・5~7ページ
- 《学習①》北上田毅さん報告・・・・・・・・・・8ページ
- 《学習②》浦島悦子さん報告・・・・・・・・・・9ページ
- 《学習③》永野隆文さん報告・・・・・・・・・・10ページ
- 《沖縄からの便り・その2》米軍に至れり尽せりの計画・・・・・・・・11ページ
- インフォメーション・・・・・・・・・・12ページ

※写真提供…阿部悦子・松本宜崇・八記久美子  
写真転載…沖縄平和運動センターホームページより

# 「御所浦まちづくり協議会」の現地運動に感動!

## 第3回辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会総会を終えて

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会 共同代表 大津幸夫

第3回総会天草大会に参集していただいた15団体代表者と現地代表者約50名の皆様に、心から厚くお礼申し上げます。15年5月31日奄美で発足したこの全国組織も、第2回の長崎大会、第3回の天草大会と重なる毎に、お互いの人間関係も深まり、運動への確信も根強いものが見えてきました。以下、総会を振り返って見ます。

- ①現地でのすべての運営の準備をしていただいた生駒研二氏を中心とする熊本県連絡協議会(板井優共同代表)の方々に、心から厚くお礼を申し上げます。
- ②水俣の永野隆文氏からは、水俣と御所浦の関わりを。そして沖縄からは、北上田毅氏、浦島悦子氏に、沖縄現地の実践に基づく話題を提供していただき、今後の運動に大きな確信を与えていただきました。
- ③本天草総会の課題としては、結成以来の経過報告で、「環境・経産・防衛省と安倍首相に、要望書と52,429名の署名提出」(15.10.15)と「沖縄交流集会の開催」(16.4.17)、「どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない」の冊子10,000部の発行…等が主な活動でした。
- ④今後の活動として、すでに奄美大島から沖縄県那覇空港の第二滑走路建設の埋め立て石材として搬出されつつあり、沖縄県の外来生物の侵入防止条例の第一号として、奄

美大島の搬出港を調査の結果「ハイイロゴケグモ」が発見されたことが発表されました。

そこで、私の所属する「自然と文化を守る奄美会議」が、鹿児島県議会に提出した「特定外来生物の禁止条例制定の陳情書」が中心的討論となり、11月下旬に鹿児島市において、「特定外来生物運搬禁止条例学習交流会」を開催し、この際、鹿児島県の大隅半島採石場の視察交流会の計画も、緊急提案され決議されました。

- ⑤棚底港から乗船して約40分。御所浦採石場見学の日2日は晴天に恵まれました。四方は全て島と島で、どこが出入港か全く外者には分からないし、山と海だけで平野や砂浜は見えない。海外離島の奄美とは全く異なる風景を見ることが出来ました。

内海で養殖漁業と、近年は恐竜の化石発見により「天草ジオパーク」の観光で交流人口も増えつつあると聞きました

また、「採石した跡地を埋め戻すために、浚渫土砂や製鋼スラグが築堤設置として利用され、環境汚染や漁業被害が大変心配されている」…等々、説明してくれた現地の「御所浦まちづくり協議会」の会長森恵慈氏。県議会への2,000名の署名活動なども力強いものがあり、「現地の運動こそが闘いの原点である」と、確信を与えてくれました。



上…午後の総会に向け、午前中の打ち合わせに集中する全協の役員たち。右…全体会で挨拶する大津共同代表。



# 地元での総会開催に、私の心にも気が入った

辺野古土砂搬出反対熊本県連絡協議会・天草現地対策室：生駒研二

## ■生まれ変われるのなら

「もし生まれ変われるとするなら、いつの誰に生まれ変わりたいですか」と生徒に聞かれ、「江戸時代の天草の庄屋さん」と答えたのは数年前だ。東は内海の有明海・不知火海、西は外海の東シナ海と、タイプの違う3つの〔のさりの海〕に囲まれた天草は、四季の変化と合わせ様々な海の幸に恵まれた。痩せた土地にはコメはあまり育たなかったが、イモは育った。金はなくても食べ物には困らず、姥捨ても間引きもほとんどなかった。天草・島原の乱で半減し、1万5千人となった島の人口は、江戸時代の終わりには10倍の15万人を超えた。

## ■江戸時代の天草の海を見たい

戦後、「藍より青く」「魚沸く」と言われた天草の海も変わった。護岸はコンクリートで固められ、波打ち際はテトラポットが据えられた。不知火海は水銀で病み、有明海は諫早湾の締め切りで苦しみ、東シナ海には石炭専焼の荅北火力発電所140万KWが稼働し、温排水で海の温暖化を招いている。海は痛めつけられ、魚も少なくなった。イワシの水揚げでは日本一・二位を争った天草南端の牛深では、60もあった巻き網船団が0になった。今の海は、江戸時代の美しく豊かな海ではない。私は江戸時代の天草の海を見たい。そして「庄屋さん?」。そう、乱後の天草の庄屋の多くは民・百姓のことを思い行動したのだ。1805年の天草崩れ（隠れキリシタンの発覚事件）の時、穏便な解決を求めたように。

## ■立ち上がった人達

第3回総会 in 天草に向けての準備の中で、土砂搬出予定地の天草市御所浦町の【まちづ

くり協議会】や【地区区長会】のみなさんが、私の中で【江戸時代の天草の庄屋さん】と重なった。御所浦の島民・子々孫々のために、「御所浦を海のゴミ捨て場にするな」と、立ち上がった人達だ。御所浦は水俣病で苦しめられた島でもあり、10年ほど前には採石場に高レベル放射性廃棄物の候補地として手を上げようとしたこともある島だ。

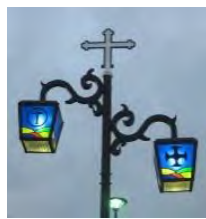
## ■熱い拍手が

これまでの採石で掘られた大きな穴。その穴にヘドロ化した浚渫土砂と、製鋼スラグが投入されていると知った彼らは、自ら調査・勉強し事の重大さを知り、町民の8割以上の署名を集め、県や市へ訴えた。しかし、現在まで知事も市長も動こうとせず、県議会も町を挙げての請願にもかかわらず継続審議とした。保健所もスラグの分析を渋っている。

「記念コンサート&講演会」で、御所浦の取り組みを報告し、参加された5人のみなさんを紹介すると、会場いっぱいの参加者から熱い拍手が送られた。翌日の御所浦現地視察では、7人の方から案内と説明をいただいた。

## ■運ばせないぞ

それに応え、愛媛県今治市の大島の塩田跡に投入された鉄鋼スラグを撤去させた経験を持つ、阿部悦子共同代表と松本宣崇事務局長からその取り組み報告と、力強い連帯の表明があった。連帯の声は水俣からも届き、大学の先生たちも協力の声を上げられている。「御所浦を海のゴミ捨て場にしてはならない。この動きを広め採石継続を断念させ、一粒の土砂も辺野古に運ばせないぞ」と、私の心にも気が入った。



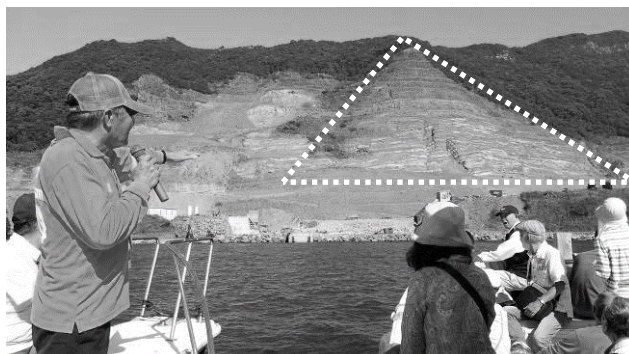
左…全体会は、ティンクルズの沖縄の音楽からスタート。上…中央が現地事務局長の、生駒研二さん

## 《総会 2 日目は「恐竜の島・御所浦」に》

10月2日、沖縄には台風が近づいていましたが、天草は晴天。この日は海上タクシーの船に乗って、土砂搬出予定地の御所浦に向かいました。海上から見る採石場の中には、「白亜紀の壁」と呼ばれる1億年前の地層が含まれていました。島では現地の方から様々な事を教えていただきました。



御所浦では3つの採石場が並んでいました



隣の船から説明を聞く参加者。右の△部分が「白亜紀の壁」



移動中の船の上でくつろぐ参加者



島に着くと恐竜のオブジェが、出迎えてくれました

採石場の問題に取り組んでおられる地元のみならずから、パワーポイントを使って、採石場の抱える問題点や取り組みなどを教えていただきました。



次回の第4回総会は、2017年5月27日(土)～28日(日)、北九州市で開催される予定です。

来年、全国からみんなが来るのを、楽しみに待ちよるけねー by 北九州連絡協議会

# 2016.10.1 辺野古土砂全協第3回総会報告

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会 事務局長 松本宣崇



総会の様子。テーブルが足りなくて椅子だけの方も。

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会（以下、辺野古土砂全協）第3回総会が10月1日、熊本県天草市で開催されました。地元・熊本はもとより、北は埼玉、南は沖縄までオブザーバー含め15都府県から約50名が参加、熱い意見が取り交わされました。

総会では、外来種の持ち出し、及び持ち込みを防止させることを共通課題とし、4月公表された「生物多様性の観点から見た重要海域」に土砂供給予定地地先海域が6割強含まれていること、IUCN 国際自然保護連合ハワイ会議決議の活用、そして、「沖縄県外来生物侵入防止条例」の実効性の担保への取り組みを、秋以降の重点的課題として多くの時間を割いて議論しました。参加者から、今進められている各地での個々の取り組みが紹介され共有するとともに、各地域の活動に生かしていくことを確認しました。以下、総会で確認された活動方針を報告します。

## 1 署名・第二次提出日設定と署名活動の今後の継続について

- ・11月1～2日あたり第二回署名提出実現を目指す。
- ・第二次署名提出に合わせ、昨年同様、政府側との交渉の場を設定する。
- ・土砂搬出反対署名活動は継続するが、期限を切って集約することは一旦休止する。

## 2 政府への働きかけ

生物多様性国家戦略に即して外来種持ち込みを防止することが政府の責務であることをどう担保

できるのかを厳しく追及していく。その際、土砂供給業者との契約がまだ行われていない現状を踏まえ、契約をさせない、または遅らせるためにあらゆる手段を講じることを当面の目標とする。

a) そのために、契約前に外来種持ち込み防止対策を作成することを約束させる。その上で、防止策をいかなるものにするのか議論を進める。

- ・外来種対策の策定のため、防衛省に設置の環境監視等委員会の助言指導を得るとされているが、議論内容を明らかにさせる。

- ・環境監視委員会委員への公開質問状を準備する。

- ・購入業者が決まり次第、契約前に購入予定の岩ズリ保存現場において特定外来生物に関する詳細な環境生物調査を実施し、特定外来生物の有無を確認するよう求める。

- ・調査の結果、外来生物が発見された場合、その対応方法を立案、対処するよう求める。

- ・参加者より、国会議員との連携を図り、質問主意書提出による、過去の搬出土砂の実態調査を政府に強く求める提案を了承した。

b) IUCN 国際自然保護連合ハワイ会議決議「島嶼生態系への外来種の侵入経路管理の強化」に対する政府の対応を追及する。

日本政府の決議採択棄権の理由を明らかにさせる。

日本は政府として、生物多様性国家戦略からすれば決議に対しどう答えるのか？明らかにさせる。

## 3 沖縄県と県議会に対する働きかけ

a) 沖縄県

- ・沖縄県の外来生物侵入防止条例の実効性の確保のための改正を求める。

- ・背景として、那覇空港埋立て用の奄美の土砂置き場などで特定外来生物ハイロゴケグモが確認されたが、そのまま搬入された現状がある。

- ・条例を有効にすべく、自治体の広域連携として、搬出県に対して協力要請するよう求める。

- ・辺野古土砂全協としては、その要請を踏まえて、各県への要請や交渉を進めていく。

沖縄県から搬出県に対し、  
・沖縄県の立入り調査への協力、ないし調査依頼。  
・持ち込み防止対策実施に関するチェック体制への協力要請を求める。

#### b) 沖縄県議会 与党会派へ

条例制定主導の議員に向け、沖縄県への要請と同じ内容を求めていく。対政府交渉の次に、出来るだけ早期に沖縄県への要請行動を設定する。

### 4 搬出県、及び地域における取組み

搬出県において、沖縄県条例の実効性を担保させていくために、本土側搬出先における世論形成と県への働き掛けを強化する。

a) 搬出県に対し沖縄県の土砂条例に基づく立ち入り調査に対する協力・連携の申し入れ。

b) 搬出県では、採石業による地先海底を含む自然環境への影響、景観毀損について、住民・市民の参加のもとに調査の早期実施と結果の公表。

c) 土砂供給予定地が「生物多様性の観点から見た重要海域」に含まれることを活用。

重要海域を所管する府県に、重要海域の環境保全への取り組みを要望し、環境を毀損する採石業の免許延長には、先例にとらわれず厳に抑制を求める。

さらに、参加者から各府県に対し「外来種移出条例制定」陳情や、外来種を「拡げないためのセミナー」開催等を求めるとの提案あり、確認された。

### 5 辺野古土砂冊子の頒布、

#### さらに広めよう

加盟団体は、販売をより積極的に進めるべく、少しでも預かり、可能な限り種々のイベントなどに持ち込み、宣伝・販売に協力することとした。

### 6 IUCN国際自然保護連合

#### ハワイ会議決議を広める

9月1日、IUCN国際自然保護連合ハワイ会議において、日本自然保護協会（他に共同提案者5団体）提案による「島嶼生態系への外来種の侵入経路管理の強化」決議が採択された。

辺野古埋立て土砂と外来種問題の決議について、3カ所で報告会が計画されている。

- ・**沖縄** 10月1日(土)18:00～  
名護市中央公民館
- ・**大阪** 11月5日(土)13:00～  
ドーンセンター
- ・**東京** 11月12日(土)18:30～  
港勤労福祉会館

ハワイ決議により辺野古埋め立てに関わる土砂搬入による外来種持ち込み問題が、埋め立てられる側と搬出地だけの問題ではなく、国際的な環境問題のひとつとなった。辺野古土砂全協は、報告会での発言・報告などの形で協力し取り組むことを確認した。

### 7 「沖縄県民の民意尊重と基地押し付け撤回を求める全国統一請願署名」を進める

「止めよう！辺野古埋立て 国会包囲実行委員会」では、「総がかり行動実行委員会」を中心に組みの請願署名の計画が進められており、最終的に沖縄側から「基地の県内移設に反対する県民会議」、本土側から「止めよう！辺野古埋立て 国会包囲実行委員会」「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」の3団体の呼びかけで取り組むことになった。秋から年明けにかけて全国的統一闘争の中心を沖縄が担うことになった。

署名提出は、高江工事および辺野古工事再開もあり、来年1月通常国会冒頭、一定数集まれば年内提出も考えることになっている。辺野古土砂全協としてこの取組の一端を担い、連携していく。

### 8 辺野古土砂全協役員選任について

辺野古土砂全協役員体制強化・拡充について前回総会では、共同代表・事務局・監査・顧問の選任にとどまっていることに踏まえ、緊急動議。

加盟団体18団体より各一名の役員就任、今後の全国的な運動との連携を踏まえ首都圏グループからのオブザーバー参加の要請を、そして今総会記念講演講師・北上田毅さんと、熊本県連絡会共同代表・板井優弁護士顧問就任を提案し、了承された。

### 9 2015年度決算、2016年度予算案承認

2015年度決算・2016年度予算案は原案通り承認されました。(15年度決算・16年度予算案は次頁)

### 10 鹿児島市で土砂問題集会を開催

那覇空港拡張工事で土砂搬出が先行した鹿児島県で、奄美や南大隅の抱える問題を広く訴えていく集会を11月中旬に開催することを確認した。

### 11 次回第4回総会開催日時・開催地




次回、第4回総会は、北九州連絡会より受け入れの表明があり、2017年5月27日(土)～28日(日)に北九州市で開催を満場一致で決定した。

**辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会**  
**第1期(2015.6.1～2016.3.31)決算**  
**並びに次期第2期(2016.4.1～2017.3.31)予算案**

	勘定科目	補助科目	第1期予算		第2期予算
			予算	決算	
収  入	前期繰越			0	346,905
	会費			182,000	570,000
		団体年会費		110,000	120,000
		個人年会費		72,000	180,000
		総会参加費等		0	270,000
	事業収入			0	2,320,000
		集会シンポ等		0	20,000
		辺野古冊子販売		0	2,300,000
	寄付・カンパ			427,000	500,000
	雑収入			0	5,500
		雑収入		0	5,000
		受取利息		0	500
辺野古基金助成				530,000	
合 計			0	609,000	4,272,405
支  出	外注費			12,920	20,000
	機関紙費			204,418	1,360,000
		封筒・振替用紙		11,140	60,000
		印刷費		97,308	1,000,000
		発送費		95,970	300,000
	会議費			0	400,000
		総会費		0	250,000
		役員会		0	150,000
	旅費交通費			29,620	180,000
	通信費			3,792	90,000
	事務消耗品費			10,715	60,000
	資料費			0	3,000
	印刷費			0	30,000
	支払手数料			130	3,000
	雑費			500	0
	冊子作成費				1,005,648
	広告宣伝費			0	50,000
辺野古基金助成金支出			0	530,000	
合 計			0	262,095	3,731,648
当期残高(次期繰越金)				346,905	540,757

**監 査 報 告**

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会第1期(2015年度)会計を厳正に監査したところ、帳票書類等正確かつ適正に処理されていることを認めます。

監 査 五 宝 光 基  監 査 野 田 恵 美  

## 沖縄県土砂条例の最初の適用例から見えた課題

沖縄平和市民連絡会・ヘリ基地反対協抗議船船長 北上田 毅

### ■よろしくお願いします

第3回総会で、なんと全国連絡協議会の「顧問」にご指名いただきました。他の顧問の先生方は皆、著名な学者・先生方なので当初は固辞させていただいたのですが、元土木技術者として、また、辺野古新基地建設事業の反対運動にかかわり続けている者として、そして全国連絡協議会と沖縄の連絡係として、あるいはお役に立てることがあるかもしれないと思い、身に余る役職ですがお受けさせていただきますことになりました。精一杯努めさせていただきますので、よろしくお願いします。

### ■適用してわかってきたこと

さて、第3回総会後の講演会では、主に、沖縄県土砂条例の初めての適用例だった那覇空港第2滑走路埋立て事業における奄美大島からの石材搬入について、お話しをさせていただきました。

土砂条例は沖縄県議会与党県議団が頑張っていたことで成立したのですが、実際に適用されてみると条例の問題点や限界なども明らかになってきました。たとえば次のような点です。

- ① 那覇空港埋立てでは、25万 $\text{m}^3$ メートルの石材だったが、辺野古埋立ての場合、1700万 $\text{m}^3$ もの大量の岩ずりが持ち込まれる。90日の審査期間はあまりに短すぎる。
- ② 奄美大島の事例では、搬入予定日の90日

以前までに提出される届出書に、業者は「特定外来生物は確認されていません」と記載していたにもかかわらず、県の立入調査では全ての採取地からハイイロゴケグモが確認されたこと。

- ③ 目視による確認が規定どおりに行われているかどうか確認できないこと。
- ④ 採取地から搬出する際のシャワーによる石材洗浄が、定められた時間行われているかどうか確認できないこと。また、石材ではともかく、辺野古の埋立てに使われる微粒子分の多い岩ずりの洗浄など可能なのか、いったいどれほどの洗浄時間が必要なのか検討もつかないこと。
- ⑤ 県が指示した、運搬時や港での一時仮置き時にシートや覆いをかけることが徹底されていないこと。

### ■防除対策が業者任せに

結局、問題となるのは、ほとんどの防除対策が業者任せになってしまっているという点です。土砂条例に実効力を持たせるために、「届出制」を「許可制」にすることはできないのか、また、罰則規定を設けられないのかなどの議論が必要でしょう。スタートしたばかりの条例を改正することは難しい点も多いかもしれませんが、今後、沖縄県与党県議団とも相談しながら検討していきたいと思います。



本場にわかりやすい、北上田さんの話



## 残すべきものは「自然」と「平和」

へり基地いらない二見以北十区の会 浦島 悦子

### ■レイプ事件の答え

沖縄島北部、名護市東海岸（辺野古・大浦湾沿岸地域）に突然降って湧いた新たな米軍基地計画に、私たち地域住民が翻弄されて約20年になる。

沖縄戦から27年間の米軍政を経て日本復帰した後もますます重くなる基地負担にあえいでいた沖縄県民の怒りが、1995年の米海兵隊員による少女への集団レイプ事件で爆発したとき、日米両政府が出した答えは、世界一危険といわれる普天間基地の返還だった。しかしそれには「県内移設」の条件が付いており、そのターゲットとされたのが、過疎化・高齢化に悩むわが旧久志村（名護市合併以前の村名）だった。

### ■潮目が変わったのは

基地が来ればその経済効果で地域がうるおい、仕事ができ若者が帰ってくる…などの甘い宣伝を跳ね飛ばすように地域挙げての反対運動がおこり、97年12月の名護市民投票では、政府によるさまざまな圧力や介入をはねのけて、基地NOの市民意思が示された。

しかしながら、当時の名護市長は国の圧力に屈して市民意思を踏みにじり、基地を受け入れて辞任。以来、基地容認あるいは賛成の市長のもとで私たちは、一時は孤立無援とも思われた苦しいたたかいを続けてきた。

その潮目が変わったのは、2010年の市長選に東海岸出身の稲嶺進現市長が立候補を表明

してからだ。基地容認の見返りとして注ぎ込まれる交付金や、防衛省予算で次々に建設される新しい箱モノが決して地域の暮らしを豊かにせず、人々を分断させるだけであることに気づいた地域住民、名護市民は保革を超えて「海にも陸にも基地を造らせない」稲嶺市政を誕生させ、名護市から始まったその流れは次第に大きく、「オール沖縄」の奔流となって「辺野古新基地絶対阻止」を掲げる翁長雄志県政の誕生へとつながった。

これに対し、米国の顔色を窺い、沖縄に基地を押し込めようとする安倍政権は、翁長県政・県民に対する差別的な攻撃を強め、辺野古でも高江でも、警察権力によるすさまじい弾圧と「カネ」による分断に躍起になっているが、それは県民の結束をさらに固くするだけだ。

### ■次の世代に

私たちは今こそ、たたかひの原点＝私たちが次の世代に残すべきものは「自然」と「平和」以外にない＝に立ち返り、命と暮らし、伝統文化を育んできた「母なる海」大浦湾をはじめとする自然環境を守り、島を破壊し多くの命を奪った沖縄戦のような戦争につながるものを二度と許さないことを改めて肝に銘じたい。それは辺野古への埋め立て土砂搬出を許さない各地の皆さんの思いとも重なるものだ。

沖縄の文化についても話された浦島さん



## 御所浦島と水俣 伝えたかった事と、これからの事

エコネット水俣・みなまた地域研究会 永野隆文

### ■二つの関係は

御所浦島と水俣の関係は、水俣の水道水の海底送水管を通しての供給や、1977年から始まった水俣湾の水銀ヘドロを仮置きする埋立地の覆土に土砂が使われたこと。そして何よりも、1956年の水俣病公式確認後の58年、チソがそれまで南側の水俣湾に流していた排水を、北側から流し、不知火海沿岸一帯に水俣病が拡大し、御所浦島でも被害を受ける人を続出させたということ。一方、現在の問題として、公式確認から60年たった今も、不知火海沿岸住民の健康調査が実施されておらず、被害者の数や地域といった全容解明に至っていないこともあります。

### ■環境復元ではなく環境破壊

1990年3月には水俣湾埋立て工事が終了しましたが、11月に市民グループ「水俣・海の声を聞く会（濱元二徳代表）」は、熊本県知事・細川護熙氏に5項目の公開質問状を出しています。その中でこう述べています。「私たち市民は、“水俣・海の声を聞く集い”を重ねいろいろ論議しました。その中でかつてはヘドロ工事による二次汚染など工事の安全性を危惧するものが中心でしたが、その後覆土のための山土採取が新たに山や丘を削るなど自然破壊を引き起こしていることに気づき、これは

環境復元ではなく環境破壊の何物でもないと考えました。これからも向こう2年間で2mもの沈下が予想されています。それに伴ってまた山を削り自然破壊を繰り返すのか、地球規模の環境危機が叫ばれている時、私たちとしてはこのことを見過ごすことはできません。」

そして質問として「⑥、1990年3月までに埋立地に盛り土されたシラス、山土の採取場所、量、時期を明らかにしてください。これから予定されている計画についても同様にしてください。⑦、環境復元のためとして行われた埋立て工事ですが、山や岡、島を削るのは環境破壊ではないのですか。」をあげました。

### ■しりぬぐいはいつも少数の地

水俣湾のヘドロ埋め立て地の覆土には、御所浦島の土が使われ、島肌は、今も無残な姿をさらしています。環境復元の裏で行われた環境破壊！島が泣いている、現場を見てそう思いました。経済の発展の負の部分のしりぬぐいはいつも少数の地、今、辺野古の埋め立てに、御所浦島の土が用意されています。水俣病事件の教訓は、今の問題に真摯に向き合うこと。水俣病で苦しんだ地の土が、沖縄辺野古を苦しめる。意思表示が求められています。水俣からも新たに声をあげます！



上…真ん中が永野さん。総会参加者とともに。

左…水俣市大崎鼻に立つこの碑は、1977年に、水俣市から海底送水管で水がもらえるようになった御所浦の町民が、感謝の意を表して、立てたもの。海の向こうには御所浦の採石場の岩肌が見える。

沖縄からの便り  
《連載 No.2》  
いちやりば  
ちよーでー

《高江》

# 米軍に至れり尽くせりの計画

## 陸上自衛隊ヘリまで投入して

ヘリ基地いらぬ二見以北十区の会 浦島悦子

安倍政権が翁長知事を訴えた辺野古埋め立て承認取り消し「違法確認訴訟」で、福岡高裁那覇支部（多見谷寿郎裁判長）は9月16日、沖縄県敗訴の判決を言い渡した。裁判所前で判決の結果を待っていた1500人の県民に、県側代理人が「想定された中の最悪の判決内容」だと報告すると、抗議の声が渦巻き、「これからがほんとうの戦いだ」という声があがった。「辺野古移設が唯一の解決策」だと国の主張を100%代弁する判決に、翁長知事は「啞然とする」と語った。

一方、高江のオスプレイパッド建設をめぐる状況もひどくなる一方だ。機動隊の弾圧にもめげない住民・県民の連日の抵抗で工事が大幅に遅れていることに焦った防衛局は、9月9日から民間ヘリによる工事用資機材の空輸を開始。13日にはなんと、ついに陸上自衛隊ヘリまで投入したのだ。

貴重動植物の生息地であり県民の水がめでもある宝の森を切り裂いて進む工事をなんとか止めようと、米軍訓練場内で抗議する市民をロープで縛って排除するという人権侵害もまかり通った。報道によると、米軍用地内には日本の逮捕権は及ばないが、北部訓練場に限り日本の逮捕権を認めることに米国が同意したという。

ここまで政府が焦るのは、なんとしても年内にオスプレイパッドを完成させ、「北部訓練場の過半の返還」を実現し、「沖縄の基地負担軽減」を国民にも米国にも示したいからだ。しかしながら、県民はこれが負担軽減とは真逆の負担強化に他ならないことを知っているからこそ反対しているのであり、政府の宣伝に騙されてはならない。米軍は「訓練に使用不能」な場所を返すだけであり、厄介払いした上に最新鋭のオスプレイ用ヘリパッドと上陸訓練用の河口域（これはすでに提供済み）を手に入れるという（米軍にとって）至れり尽くせりの計画なのだ。

高裁判決に対し、沖縄県は10月3日、最高裁に上告した。年内もしくは年度内に確定判決が出ると見られている。年内に高江の工事を終了させ、大量の機動隊を今度は辺野古に差し向ける腹積もりだろう。安倍政権のやりたい放題を許してはならない！



いずれも高江でも様子です

※「いちやりばちよーでー」は、「一度会ったらみな兄弟」という意味です。

# インフォメーション

## ■ 「辺野古土砂搬出計画」

### 対政府要請交渉 & 計画撤回を求める署名第二次提出

11月 1日(火) 12:00 衆議院第二議員会館ロビーに集合 12:30 前段集会  
13:00~15:00 衆議院第二議員会館 B1F 第二会議室  
環境省・防衛省と要請交渉。終了後、内閣府に第二次署名提出。

※ 要請交渉に出席ご希望の方は、事前に事務局(090-3638-0187 松本)までご連絡下さい。  
※ お手元の署名用紙は、お早めに辺野古土砂全協事務局に送付して下さい。

## ■ 鹿児島集会 (特定外来生物運搬禁止条例学習交流会 & 大隅半島採石予定地視察・現地交流会)

### <学習交流会> 11月23日(水・祝) 13:00~20:30

学習会 13:00~17:30 交流会 18:30~20:30 (会費:4200円)

会場 ホテル タイセイアネックス (鹿児島市中央町4-32 鹿児島中央駅東口徒歩5分)  
TEL 099-2577-1111 学習会・交流会・宿泊すべて同ホテルです

### <南大隅視察> 同 24日(木) 6:40~16:00 (貸切バス・昼食代3000円)

06:40 ホテル出発 ~ 16:00 ホテル着・解散(航空便の方は鹿屋14:05発の空港行バスに)  
10:30~12:30 大隅半島南大隅町辺塚 採石予定地視察・現地交流会

### <鹿児島県知事への申し入れ書提出> 11月22日(火)

現在、詰め調整中です。詳細は事務局(090-3638-0187 松本)までお問合せ下さい。

## ■ 各地の予定

- 11月 2日(水) 辺野古に土砂を送らせない! 11.2 沖縄と東京北部を結ぶ集い  
18:30~ 豊島区生活産業プラザ多目的ホール 資料代500円  
お話 阿部悦子(辺野古土砂全協共同代表) 辺野古/高江 現地からの報告  
主催 「沖縄と東京北部を結ぶ」実行委員会(加藤 090-3509-5441)
- 11月 5日(土) IUCN国際自然保護連合ハワイ会議報告会  
13:00~ 大阪・ドーンセンター  
主催 シュゴン保護キャンペーンセンター
- 11月 6日(日) 播磨灘を守る会 発足45周年記念総会&シンポジウム「原発と瀬戸内海」  
会場 シーサイドみゆき(たつの市御津町新舞子)
- 11月12日(土) IUCN国際自然保護連合ハワイ会議報告会  
18:30~ 東京・港勤労福祉会館  
主催 シュゴン保護キャンペーンセンター
- 11月29日(火)~12月2日(金) 「山口のこえ」沖縄ツアーで高江と辺野古に座り込み
- 12月 6日(火)~ 8日(木) 「北九州連絡協議会」沖縄ツアーで高江と辺野古に。  
今回は、地元の合唱団のメンバーを中心に、曲の創作もかねて。

## ■ カンパ等の振込先

郵便振替 01750-8-144158 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会  
2016年度会費が未納の団体は、入金をよろしくお願いします。



## ■ 編集後記

○第3回天草総会は、生駒さんはじめ天草の皆さんのお心を尽くされてのご準備と、普段の広範な活動がしのばれる2日間でした。御所浦のみなさんや「水俣」ともつながることが出来た画期的な総会でした。有難うございました。(阿部)

○天草での第三回総会、素晴らしかった。熊本県連絡会の皆様に感謝します。辺野古土砂採取予定地の「恐竜の島」御所浦島は、誰でも化石を手にする。日本列島では極めて稀だ。感動した!(松本)

○「総会開催は想像以上に大変。でも、地元の運動を飛躍させる機会やけ、頑張ろうね」と、世話人会で再確認し、既に会場や宿の準備に取り掛かりました。来年は北九州で待っています。(八記)

### 《辺野古土砂搬出反対全国協ニュース》

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 大津幸夫(自然と文化を守る奄美会議)

阿部悦子(環瀬戸内海会議) hibi\_etsuko@yahoo.co.jp

編集…松本宣崇(環瀬戸内海会議) nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

八記久美子(門司の環境を考える会) kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp

連絡先…愛媛県松山市松前町3-2-2 阿部悦子 TEL090-3783-8332